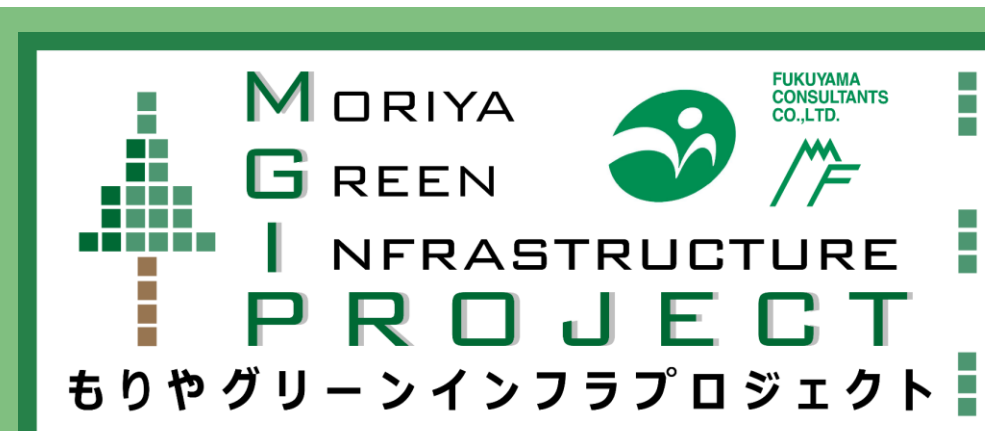


茨城県守谷市におけるグリーンインフラの取組み ～ 活動開始から7年目の取組状況 ～



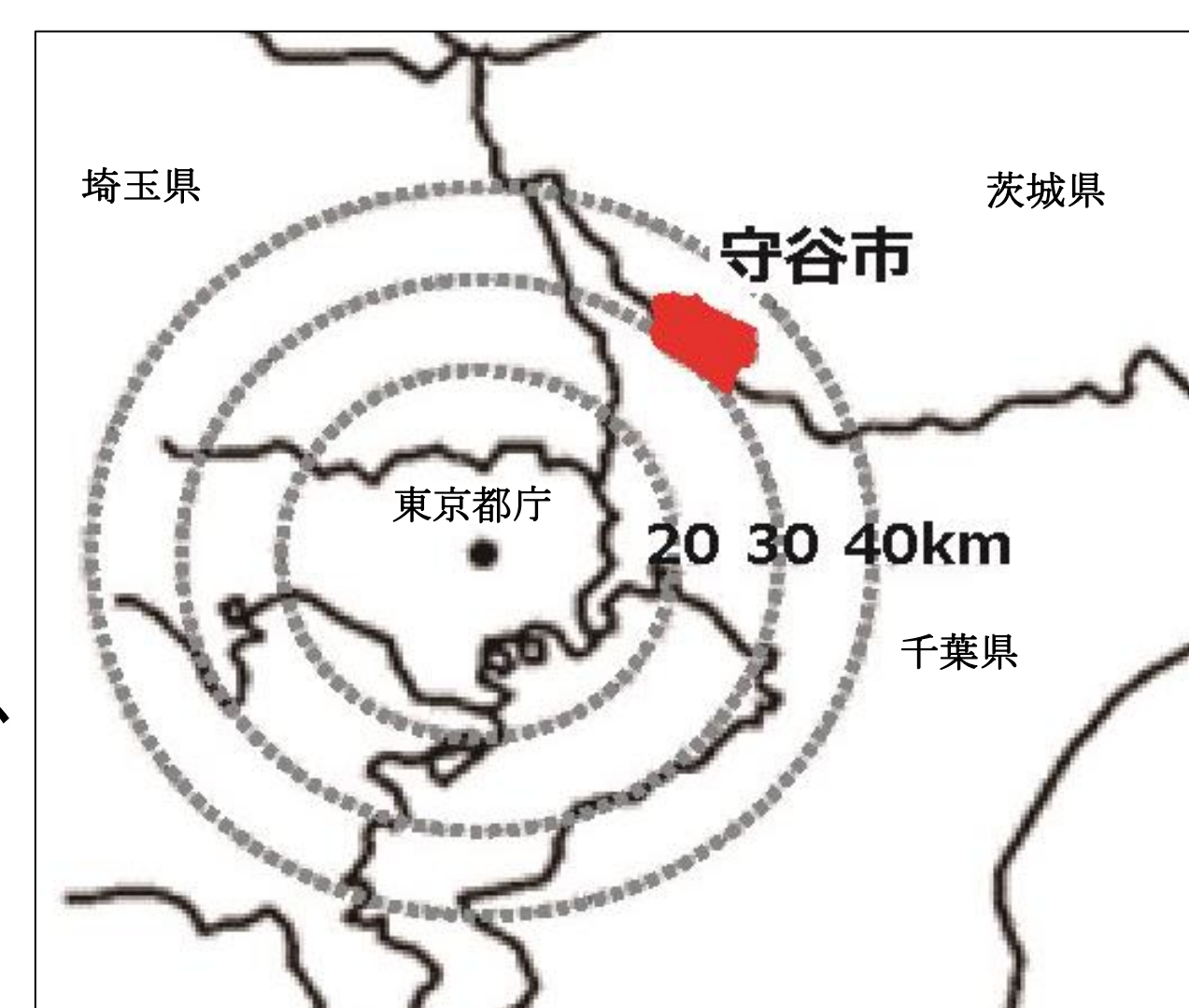
キーワード：官民連携、まちづくり、グリーンインフラ



守谷は自然を大切にします。それは先人たちが残してくれた素晴らしい環境を未来に残したいから。守谷の財産である自然の恵みを暮らしに取り込み、持続可能な豊かなまちを目指すグリーンインフラ推進の取組を開始しています。

○位置

- 茨城県守谷市全域
- 守谷市は、都心から40km圏内、電車で約30分であり都内へ通勤可能



○基本理念（守谷版グリーンインフラ）

都心からアクセス性が良いエリアでありながら、市内に多く残されている里山の自然を地域の資本として活用する。

○地域課題・目的

- 里山の自然をグリーンインフラとして活用し、魅力的な地域づくりを推進することで「住民の高齢化」「子育て環境の充実」「都市間競争力強化」といった、市の課題解決を目指す。
- 自治体スケールで戦略的にグリーンインフラを導入し、課題解決と魅力向上につなげることを目指し、グリーンインフラを行政計画に位置づけつつ、事業への導入を推進。



○取組の経緯・概要

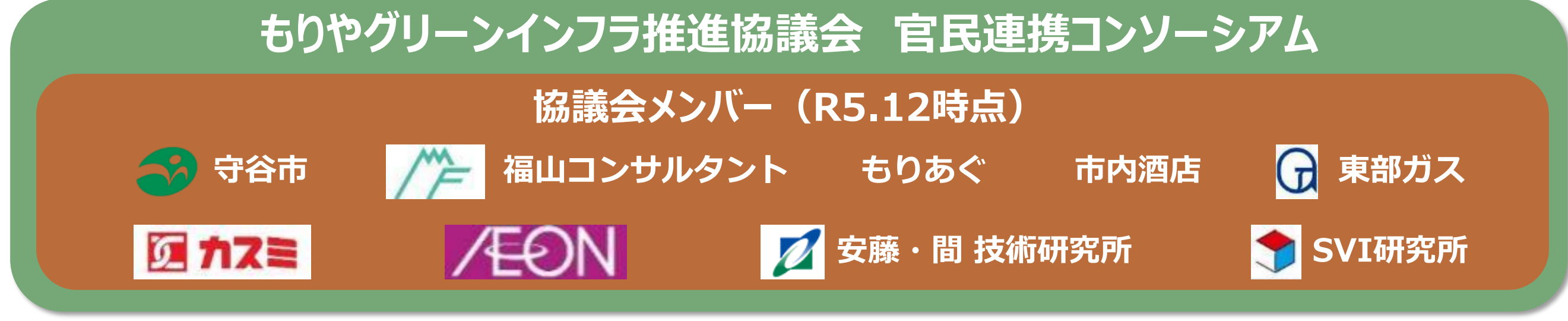
- 守谷版グリーンインフラの取組みは、2017年11月に守谷市と福山コンサルタントが官民連携包括協力協定を締結し、取組みを開始。
- 市と民間企業で構成された、官民連携コンソーシアム「もりやグリーンインフラ推進協議会」を中心に取組みを進めています。官民連携で市内にグリーンインフラの理念に基づくプロジェクトを次々に立ち上げることを狙う。
- 【Moriya Green Beer 事業（公共施設緑化）】、【国交省スマートシティモデル事業（GI×スマートシティ）】、【シェアファーム事業】など、あらゆる市民に興味を持ってもらえるような情報発信の工夫をしながら、従来のインフラ整備以上に、ワクワクする取組みを目指して取組み中。



GIのまちづくりへの戦略的活用に向けて福山コンサルと官民包括連携協定を締結

○推進体制

●守谷版グリーンインフラを推進する主体として、官民連携コンソーシアムである「もりやグリーンインフラ推進協議会」を設立。



協議会構成員（R5年12月時点）		
事務局	構成員	Moriya Green Beer 部会
守谷市 (株)福山コンサルタント	もりや循環型農食健協議会(株)SVI研究所 株式会社 安藤・間技術研究所 株式会社 東部ガス	玉兼酒店 栗原酒店 松丸酒店 地引酒店 酒のふるや イオンタウン守谷 株式会社 カスミ

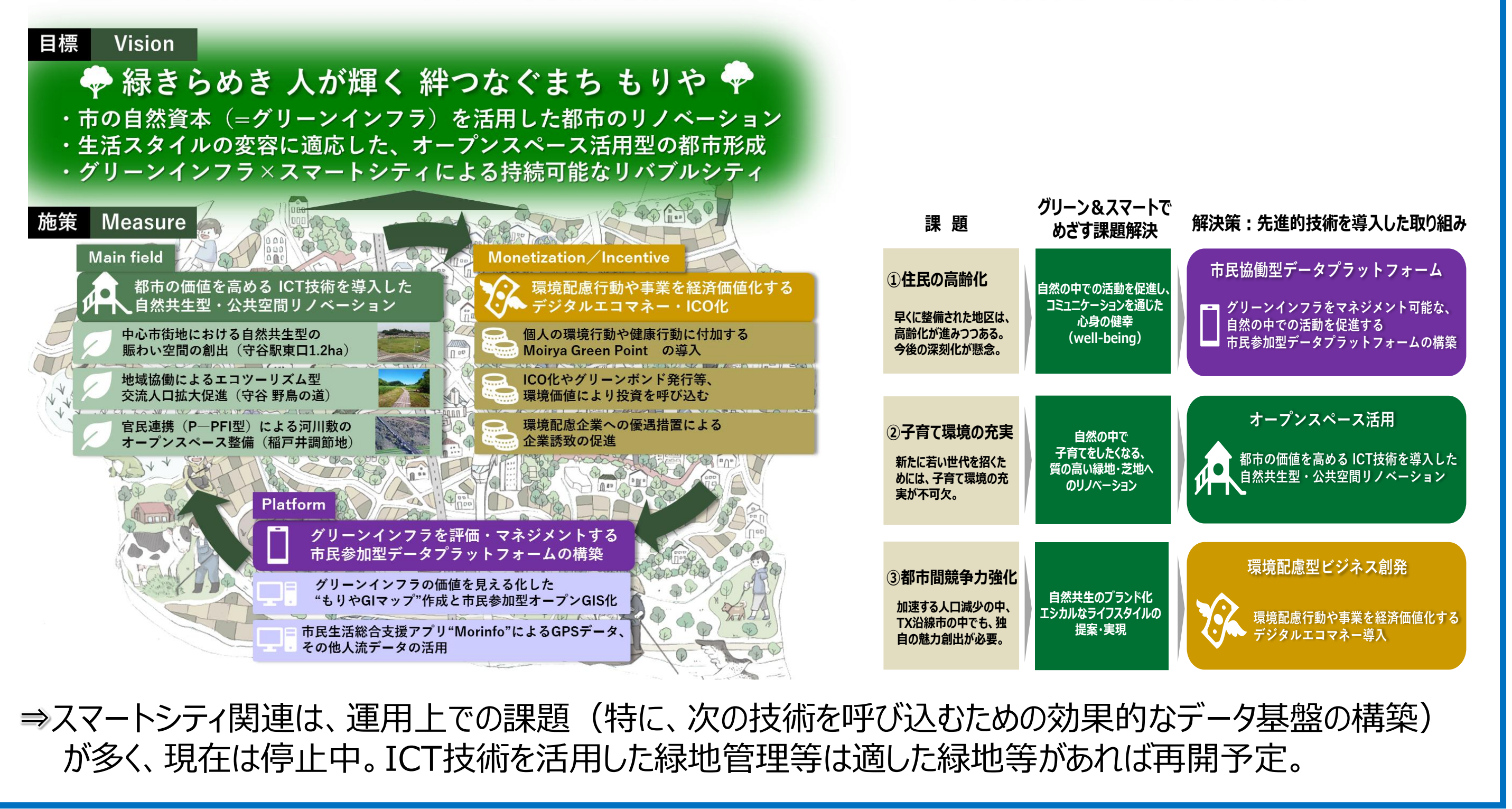
○7年目までの取組状況・今後の展開

●市内の個別事業へグリーンインフラ思想の反映の推進、行政に頼らない事業の展開へ



●スマートシティ関連

●グリーンインフラを活用したまちづくりとスマートシティ化を推進し、豊かな自然と共生した美しい持続可能な未来都市へ、市民協働で進化を目指す。



●Moriya Green Beer 事業（公共施設緑化）

- 守谷市市内検討会(市役所職員の提案)から生まれたパイロット事業(育てて楽しい! 飲んでおいしい! 環境にもやさしい! がコンセプト)
- 守谷市役所や学校、商業施設等でホップのグリーンカーテンを設置し、緑化を推進し、その育ったホップを使ってオリジナルビールの生産・販売、売り上げの一部がグリーンインフラ推進の資金となる取組み。(2018～2022年の5年間で約5万本を販売)



⇒税金を投入しない+話題性のある新特産品
⇒【本当の狙い】市民へのGIの思想の普及

【継続するうえでの課題】

- ・栽培施設の管理者への負担(公共施設の場合、本業の合間に対応するため、体制が構築できない)
- ・栽培担当者が変わると、栽培栽培方法などの引継ぎがうまくできない
- ・管理状況により、ホップの収穫量が安定しない

【今後の展開】

- 行政(守谷市)主導から、民間主導の緑化事業への切り替え

グリーンインフラのPR活動の一環として、Moriya Green Beer(オリジナルビール)の存在意義は大きい。これまでの仕組み・ノウハウを活かして、民間主導でリブランド、事業継承への道を模索する。

※もりやグリーンインフラ推進協議会メンバーであるスーパーマーケットカスミ、もりや循環型農食健協議会(もりあく)を中心に事業化を検討中

●守谷版シェアファーム事業(仮)

福祉・健康増進に寄与する地域協働の市民農園(守谷版シェアファーム)の整備を検討

- 地域協働で運営するシェアファームを整備し、高齢者の健康増進や、子育て世代の住みやすさの向上を目指す
- 農業と医療や社会的サービスを融合したシェアファーム等を中心にインクルーシブな地域拠点を目指す

	社会課題	想定する機能
都市	都市住民の健康 魅力的な都市空間 公共空間の活用	○生活に潤いを与える身近な“農” ○“農”から生まれる多世代・地域内外のコミュニケーション、交流。そして、“心理的健康” ○愛着のある“緑”=グリーンインフラ
郊外	高齢化・健康維持 世代交流	○“農”を通じた福祉、医療、健康 ○インクルーシブな交流、コミュニケーションの装置 ○地域の拠点となるグリーンインフラ

